

日语考级丛书

# 挑战日本語

## 教师用书

学ぼう! にほんご 教師用マニュアル

初級2

日本語教育教材開発委員会 編著

42  
792



北京大学出版社  
PEKING UNIVERSITY PRESS

日语考级丛书

# 挑战日本語 教师用书

新編！にほんご 教师用マニユ

初級 2

日本語教育教材開発委員会 編著



北京大学 出版社  
PEKING UNIVERSITY PRESS

**著作权合同登记 图字：01-2006-5400**

中国版の奥付には「Copyright 西暦年号 by Senmon Kyouiku Publishing Co., Ltd.」と表示すると同時に、「中国内の出版・販売権は北京大学出版社が有しており、それについて株式会社専門教育出版は同意した」という内容の中国文を表示するものとします。

**图书在版编目 (CIP) 数据**

挑战日本語教师用书. 初级 2/ 日本語教育教材开发委员会编著. —北京: 北京大学出版社, 2006. 12

(日语考级丛书)

ISBN 7-301-11348-X

I. 挑… II. 日… III. 日语 - 水平考试 - 教学参考资料 IV. H360.42

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2006) 第 147219 号

**书 名：**挑战日本語教师用书·初级 2

**著作责任者：**日本語教育教材开发委员会 编著

**组 稿 编 辑：**许耀明

**责任 编 辑：**郭晓丽

**标准书号：**ISBN 7-301-11348-X/H·1716

**出版发行：**北京大学出版社

**地 址：**北京市海淀区成府路 205 号 100871

**网 址：**<http://www.pup.cn>

**电 话：**邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62765014 出版部 62754962

**电 子 邮 箱：**zpup@pup.pku.edu.cn

**印 刷 者：**北京宏伟双华印刷有限公司

**经 销 者：**新华书店

787 毫米 × 1092 毫米 16 开本 7.75 印张 200 千字

2006 年 12 月第 1 版 2006 年 12 月第 1 次印刷

**定 价：**20.00 元

---

未经许可，不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有，侵权必究 举报电话：010-62752024

电子邮箱：fd@pup.pku.edu.cn

## 目次

はじめに.....	4
本書の使い方.....	5
第 21 課.....	6
第 22 課.....	12
第 23 課.....	16
第 24 課.....	20
第 25 課.....	26
第 26 課.....	32
第 27 課.....	36
第 28 課.....	42
第 29 課.....	48
第 30 課.....	54
第 31 課.....	60
第 32 課.....	64
第 33 課.....	70
第 34 課.....	78
第 35 課.....	84
第 36 課.....	92
第 37 課.....	100
第 38 課.....	106
第 39 課.....	112
第 40 課.....	118

## はじめに

本書は「学ぼう！ にほんご」シリーズの教師用マニュアルです。教師用マニュアルは、初級1、2の2冊から成り立っており、本書は初級2の教師用マニュアルです。

本書は、日本語を教える皆さんが、授業の中で、教科書を使ってどのように教えていけばよいかという、基本的なアドバイス、ストラテジーを示して、授業進行をスムーズに行なっていただくことを目的としました。

各課構成は、文型等の学習項目、モデル授業プラン、学習項目導入におけるアドバイス、その具体的な導入の例、各練習における指導のポイント、新出語彙分類表の、6項目からなり、それぞれが区分けされているので必要な情報や、重要箇所をスキミングしやすいように並べられています。新出語彙も、品詞のみではなく、表現やその他の慣用などでも分類されているため、ロールプレイやシナリオドラマのような練習でもすばやくキューを提出することができます。

あくまで基本的な進行マニュアルとして作成されておりますので、皆さんの経験、アイデアを加えてより充実した教室活動の実現ができることを編著者一同、心より願っております。

2006年7月

編著者代表記す

## 本書の使い方

各ページの左上にテキストの課とページを記し、以下、該当ページの学習項目、モデル授業プラン、導入アドバイス、導入例、指導のポイント、新出語彙を原則として各見開き2ページで提示した。

### 学習項目

テキストの該当ページで学習する項目を列挙した。そのページで導入すべき項目はここにすべて挙げてある。

### モデル授業プラン

該当ページをもとに実際に行う授業を想定し、一つの授業例としてモデル授業プランを提示した。これを見れば、教師はその授業の全体的な流れや手順をイメージしたり把握したりすることができる。

### 導入アドバイス

導入する際に教師が注意すべき点や、事前に準備しておいた方がよいこと、学生が陥りやすい誤用や学生からよく出る質問などについて記述してある。

### 導入例

導入項目の導入例を具体的に例示した。その項目を教える際、特に、初めて教える場合や良いアイデアが浮かばないときにはぜひ参考にさせていただき、各自工夫に満ちた導入を行ってほしい。

### 指導のポイント

テキストの該当ページにある練習、対話、やってみよう、会話について、それぞれの具体的な進め方を示した。練習を進める際、注意すべき点は「注意」として示した。さらに、「発展」として、単純な変換練習にとどまらない、より活発な授業を行うための発展・応用練習の具体例をできるだけ多く提示した。

### 新出語彙

該当ページにおける新出語彙を「名詞」「動詞」などの品詞に分けて提示した。授業準備の際、そのページでの新出語彙を教師が把握するときや、実際の導入の際に、品詞ごとにまとめて提示するのに役立つ。

## 学習項目

「～ので、・・・」 (理由)

- ・ 動詞普通体+ので cf. 仕事をたくさんしたので、疲れました。
- ・ い形容詞普通体+ので cf. 安いので、買しましょう。
- ・ な形容詞な+ので cf. 元気なので、大丈夫です。
- ・ 名詞な+ので cf. 明日テストなので、勉強します。
- ・ な形容詞普通体+ので cf. 必要だったので、買いました。
- ・ 名詞普通体+ので cf. いい天気ではなかったので、行きませんでした。

## モデル授業プラン

- |                 |   |             |
|-----------------|---|-------------|
| 1. 新出語彙導入       | ⋮ | 4. 基本文      |
| 2. 普通体の復習       | ⋮ | 5. 練習 1、2   |
| 3. 「～ので、・・・」 導入 | ⋮ | 6. 対話 1、2、3 |

## 導入アドバイス

「～ので、…」は、理由・原因を表す表現で、「～から」は、主観的に強く理由を言いたいときに使うのに対し、「～ので」は客観的に理由を述べるときに使います。

例：(先生に)「教科書を忘れたので、貸してください。」

(子供に)「遅いから、早く寝なさい。」

導入する際は(会社員が)会社に遅刻した理由を述べる場面や、(学生が)学校を早退したいと頼む場面など、先生や社長など目上の人との会話で使う場面を設定すると良いでしょう。

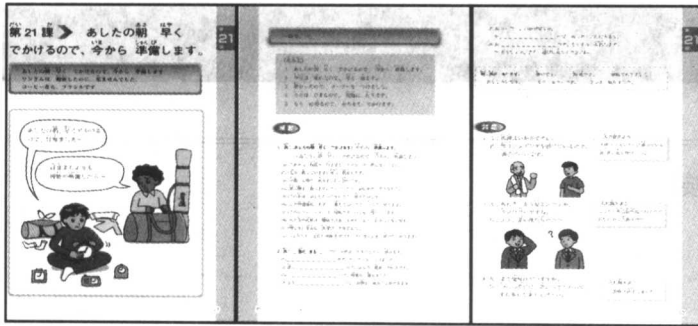
学生に「～から」との違いを聞かれることが多いですが、「おいしいからよく食べます。」と「おいしいのでよく食べます。」のように、あまり違いがない場合もあります。学生には「～ので」方が丁寧ですが、友人との会話でも謝る・頼むときなどは具体例を出して「～ので」を使うと説明しましょう。

## 導入例

1. T:「昨日、このクラスの皆で映画を見に行きました。でも、S<sub>1</sub>さんは来ませんでした。S<sub>2</sub>さん、S<sub>1</sub>さんにどうして来ませんでしたか。聞いてください。友達ですから、普通のことばで聞いてください。」S<sub>2</sub>:「S<sub>1</sub>さん、昨日、皆で映画を見に行ったけど、どうして来なかった(の)」S<sub>1</sub>:「昨日は、アルバイトがあったから、行くことができなかった(の)」T:「先生も

皆さんと一緒に昨日、映画を見に行きました。先生から、S<sub>1</sub>さんに聞きます。」「先生ですから、S<sub>1</sub>さんは丁寧に答えます。聞いてください。」T:「S<sub>1</sub>さん、どうして昨日、来ませんでしたか。」「S<sub>1</sub>さんは言います。」「アルバイトがあったので、行くことができませんでした。」

2. 板書して、文型提示  
3. 品詞毎に口頭練習



**指導のポイント**

P 11 ~ 13

P 11 イラスト

- ・文型「(たぶん/きっと)～と思います」、「～からです」を説明してから、何をしているか、どこに行くか、どうしてこんな顔をしているか質問する。学生の回答はなるべく全部板書する。

**練習 1**

- ・ここでは動詞普通形(テンス、否定形)、「名詞+な」などの接続形の正確さがポイント。

**練習 2**

- ・選ばせる前に、「ので、」以降の文を読んで、「どうして?」と質問。まず学生自身の答えを導いてから選ばせる。

**対話**

- ・教師がゆっくりモデル会話を聞かせる。その後、CD該当部分を聞かせ、自然なスピードの会話を聞かせる(なければ教師の発話スピードをあげる)。その後、教師対学生、学生対学生で自然なスピードを意識して対話させる。文の入れ替えは教師対学生の段階で行う。(学生対学生のときに入れ替え練習をするならば、教師が入れ替える文をしっかりとコントロールする)ポイントは正確性より言葉単位でのアクセントやイントネーション。

**新出語彙**

P12 ~

失礼します

【接続詞】これから

【副詞】そろそろ

P13 ~

【名詞】ジョギング 診療

スポーツセンター 体調

【動詞】受け付けます 終了します

【表現】あれ? いかがですか



## Text 第21課 P11～P15

### 学習項目

「～のに、・・・」 (逆接)

- ・動詞普通体+のに
- ・い形容詞普通体+のに
- ・な形容詞な+のに
- ・名詞な+のに
- ・な形容詞普通体+のに
- ・名詞普通体+のに

### モデル授業プラン

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. 新出語彙導入      | 4. 練習 1、2 |
| 2. 「～のに、・・・」導入 | 5. 対話     |
| 3. 基本文         |           |

### 導入アドバイス

「～のに、…」を導入する際は、(お金を入れると普通はジュースが出るが) お金を入れたのに、ジュースが出てこなかったという場面や、(約束したから来ると思ったが) 約束したのに来なかったという、予想と違う結果になる場面設定をすると良いでしょう。「あの店は高いのに、おいしくありません。」のように「～のに」には、予想と違ったという驚きや不満、残念な気持ちが含まれるということを具体例を出して説明します。

例: 「彼は、雨なのに釣りに行きました。」(驚き)

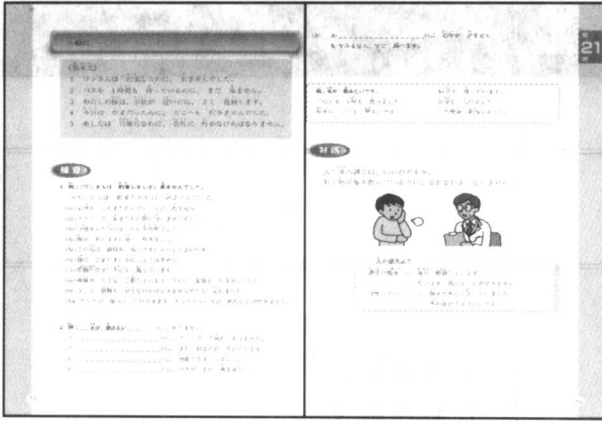
「漢字を練習したのに、忘れてしまいました。」(残念)

また「～のに」は、文末について言いきりの形で使うこともできるので、クラスのレベルに応じて紹介すると良いでしょう。

例: 「どうしてやせないんだろう? あんなに頑張ったのに。」

### 導入例

- |  |  |
|--|--|
| 1. T: 「私は、電車に乗るので、切符の機械にお金を入れました。お金を入れて、ボタンを押したら、どうなりますか。」 S: 「切符が出ます。」 T: 「そうですね。切符が出ますね。でも、切符が出ませんでした。変ですね。」「お金を入れたのに、切符が出ませんでした。」(板書) | 最近忙しいです。」「明日は日曜日なのに、仕事をしなければなりません。」                                  |
| 2. T: 「明日は日曜日です。私は仕事をしますか。」 S: 「いいえ、しません。」 T: 「そうですね。日曜日は休みです。でも、  | 3. 板書して、文型提示   |
|  | 4. 語彙単位で品詞毎に口頭練習<br>例) 食べました→食べたのに<br>雨です→雨なのに                       |
|  | 5. 文単位で口頭練習<br>例) 昨日漢字を覚えました。もう忘れ<br>ました。→昨日漢字を覚えたのに、も<br>う忘れませんでした。 |



**指導のポイント**

P 14 ~ 15

**練習 1**

- ・ポイントは接続形の正確さ。

**練習 2**

- ・まず後文を読んで、学生の答えを導いてから選ばせる。

**発展**

- ・「ので」だったら何が入るかをまず考えさせて、「のに」との違いを対照的に理解させる。その後には、「ののに」ときはどうか？」と質問し、考えさせる。

**対話**

- ・教師モデル対話→CD聴解、または教師発話のスピードあげる→教師対学生

(入れ替え練習) → 学生对学生 (入れ替え練習)

**発展**

- ・応用練習として「~ので」と「~のに」の学習が終わったところで、予想通りの場合は「~ので」を、予想と違う場合は「~のに」をペアで提示する練習をすると、両者の違いが分かり定着しやすくなります。

**新出語彙**

P14 ~

【名詞】 受験生 トマトジュース 値段  
不合格 息子

【動詞】 心配します 遅刻します

P15 ~

【副詞】 なかなか

## Text 第21課 P16 ~ P18

### 学習項目

「～なら、・・・」（取り立て）  
名詞+なら

### モテル授業プラン

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 新出語彙導入     | 6. 基本文2     |
| 2. 「なら、・・・」導入 | 7. 練習2、3    |
| 3. 基本文1       | 8. 対話       |
| 4. 練習1        | 9. やってみよう   |
| 5. 「NならNだ」導入  | 10. 会話1、2、3 |

### 導入アドバイス

この課で扱う「～なら、…」は、会話の中で前に出てきた物や人を話題として取り上げる際に用いる場合（基本文1）と、「NならNだ」のように、物や人を取り上げて話題を限定し、その範囲内で一番いいものを言うときに用いる場合（基本文2）があるので、分けて導入します。

基本文1では、人や物を探しているという設定で、何について話しているのかがはっきり分かるような会話にします。

例：「山田先生はどこですか。」「山田先生なら教室ですよ。」

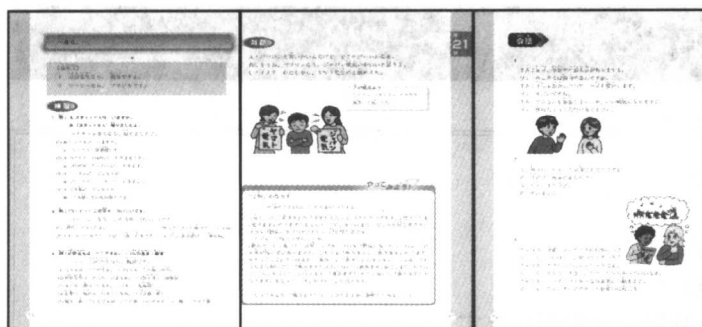
基本文2では、したいことや好きなものについて話すという会話で、それに対して自分の意見を述べるという場面を設定します。

例：「夏休み、海に行きたいな。」「海ならハワイだよ。」

基本文1、2ともに、動詞や形容詞は取り上げず、名詞だけを扱います。学生の身近なものや、関心がありそうな物にすると良いでしょう。

### 導入例

- |   |  |
|---|--|
| 1. T:「私は、〇〇先生を探しています。〇〇先生はどこですか。」 S:「〇〇先生は、事務所にいます。」 TはSが言ったことを取り上げて「〇〇先生なら、事務所にいます。」(板書) | 1. T:「私は、新しいデジカメが欲しいです。S <sub>1</sub> さん、どこのデジカメがいいですか。」 S <sub>1</sub> :「〇〇(会社名)がいいですよ。」 T:同じ会社名を使って、「デジカメなら、〇〇がいいですよ。」(板書) |
| 2. T:「私は初めてここに来ました。トイレはどこですか。」 S:「トイレなら、教室の外にあります。」(言えなければ、「～なら」を使った文でTがもう一度言う)           | 2. T:「私は、暖かい所へ行きたいです。S <sub>2</sub> さん、どこか暖かいところを知っていますか。」 S <sub>2</sub> :「暖かいところなら、ハワイがいいですよ。」(板書)                         |
| 3. 板書して、文型提示  | 3. いくつか例文を板書して、文型提示  |



は「カニは存在している」から (1) (2) と同じだという回答が出る可能性もあるので注意。回答してもらったものを一つずつホワイトボードで分別しながら進めるのがよい。

**対話**

・パソコンについて簡単な話（使えるかどうか、自分はどのメーカーを使っているか、プロバイダーはどこかなど）をした後に練習する。練習の仕方は前述したものと同様。

**指導のポイント**

P 16 ~ 18

**練習 1**

・教師がAの文を読む。「ワンさん」、「めがね」などにアクセントをおいて発話し、何が聞きたいのかははっきり意識させる。機械的に「なら」を付けて発話。ポイントはある程度のスピード。

**発展**

・テキストを閉じさせて、教師の発話を聞いてすぐに反応してBの文が言えるかどうかみる。

**練習 2**

・旅行（国名、都市名）、ラーメン（味）、コーヒー豆の生産地（メキシコ、コロンビア、グアテマラ、インドネシア、エチオピアなど）などで学生の知っているもの、あるいは好きなものをあげてもらい、話を広げていくのもよい。

**練習 3**

・(1) (2) は存在している場所。(3) (4) (5) はその中でも何がおすすめか。ポイントは意味を一緒にしないこと。特に (3)

**やってみよう**

・学生に黙読させる。「意味を説明してください。」と質問する。説明できたら褒める。（ポイント）説明できない場合は、教師がホワイトボードに書きながら読んでいく。「とる」、「つける」などは理解度が低いのでジェスチャーと同時に発話してイメージさせるのがポイント。一通り「て形」の作り方について説明したら、学生に（ので／のに）を選ばせ、ボードで実際に書きながら答え合わせを行う。

**会話**

・キーワードについては最初に紹介しておく。（弁論大会、参加する、自信がある／ない、お茶、また今度、コンサート、クラシック、チケットなど）進め方は基本的に対話と同じ。（教師のモデル会話については省略できる）

**新出語彙**

P16 ~

【名詞】 ~製 カニ カプチャー  
校長先生 ごみ箱 タンス

P17 ~

【名詞】 まちがい

【動詞】 代えます 勧めます  
参加します

【表現】 そうね

P18 ~

【名詞】 帰り クラシック

## Text 第22課 P19 ~ P23

### 学習項目

「可能表現 (1)」 (能力)

- ・ 動詞 可能形の作り方
- ・ 名詞+が 動詞 (可能形) ます。
- ・ 名詞+しか 動詞 (可能形) ません。
- ・ <場所>で 名詞+が 動詞 (可能形) ます。
- ・ 名詞 (A) +は 動詞 (可能形) ますが、名詞 (B) +は 動詞 (可能形) ません。

### モデル授業フラン

- |                                    |            |
|------------------------------------|------------|
| 1. 新出語彙導入                          | 5. 基本文 3、4 |
| 2. 可能形の作り方導入 (テキスト p 21<br>活用の作り方) | 6. 練習 4、5  |
| 3. 基本文 1、2                         | 7. 対話 1、2  |
| 4. 練習 1、2、3                        | 8. やってみよう  |

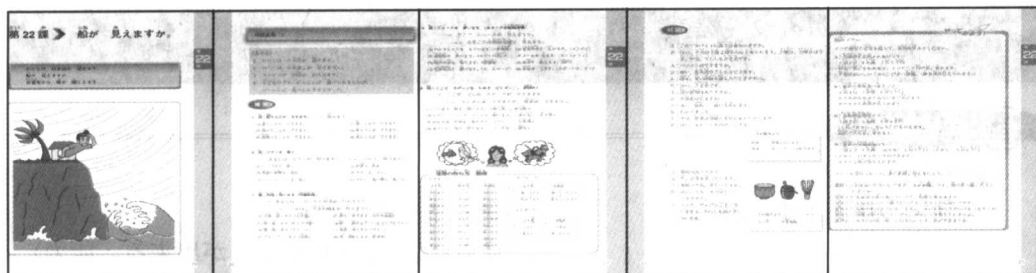
### 導入アドバイス

動詞の可能形を導入する際には、第 15 課で出てきた「～ことができる」と同様に、能力を表す場合と、状況を表す場合とに分けて導入します。能力の可能形を導入するときは、教師、学生に合わせて設定を自由に変えると良いでしょう。

「～しか～ない」は「～だけ…」との違いが分かるような導入にします。「財布に 100 円しかありません。」のように、少ないという気持ちを表す場面や、「日本語しか話せません。」のように残念な気持ちが含まれるような場面を設定します。基本的に「～ことができる」と動詞の可能形は置き換え可能です。学生から両者の使い分けを聞かれたら、具体例を挙げて「彼は馬に乗ることができます。」のように、簡単にできないことを表すときは「～ことができる」を使い、「私は自転車に乗れます。」のように難しいことには動詞の可能形を用いることが多いと説明しましょう。

### 導入例

- |  |  |
|--|--|
| 1. T: 「私は、英語を話すことができます。Sさんは、何をすることができますか。」 S: 「私は、ピアノを弾くことができます。」 T: 「私は、英語が話せます。」「Sさんは、ピアノが弾けます。」 | 練習   |
| 2. 板書して、句型提示<英語を話すことができます>→<英語が話せます>、<ピアノを弾くことができます>→<ピアノが弾けます>                                    | 5. 動詞の可能形を使うと、助詞の「を」が「が」に変わることには注意させる。また、可能形は口が回らない学生が多いので、意味が理解できたら語彙レベルでたくさん口頭練習をし、言えるようになったら、助詞に注意をさせながら、文単位で口頭練習をする。 |
| 3. 動詞のグループ毎に活用確認   |  |
| 4. 動詞のグループ毎に、語彙単位で口頭   |  |



**指導のポイント**

P19 ~ 23

P 19 イラスト

・この人は何をしているか質問する。学生から「何かを見ている」という回答が出るまで話を続ける。次に、海には何かあるかと質問して、「何もない」という答えをひきだす。ホワイトボードに「海を見ている/ます」と「何もない/ありません」を板書して、まとめて「見えない/ません」を紹介する。

練習 1

・「できる」の意味確認として行う。説明した通りに学生が動詞を変形させているかどうか注意到意する。

練習 2

・否定形の作り方を紹介した後に行う。これも正確さがポイント。「を」が「が」に変わること注意到意させる。

練習 3

・実際は「できる」のに文形上「~できない」を使うので学生は少し違和感を感じる。図を書いたりして視覚的にイメージさせるのがポイント。(板書する図の例: スポーツ…サッカー× 野球○ バasketボール× 水泳× スキー× = 野球しかできない)

練習 4

・場所を表す「で」を追加。「を」が「が」に変わることにも注意させるのがポイント。

練習 5

・練習 3 で書いた図と関連。種目を 2 つにして意味を理解させる。

活用の作り方

・文型説明の段階でこの表を使用する。

対話

・1 は、まずアルバイトの面接を経験したことのある学生にどんな状況でどんなことを聞かれたか聞いて、話してもらい。ほかの学生にもイメージしてもらい、交通費、残業、シフトなどのキーワードを紹介してから発話練習のパターンで練習する。2 も 1 と同じように趣味や習い事について話してもらい、イメージさせてから発話練習のパターンで練習する。

やってみよう

・駅に置いてあるパンフレットなどを見せて、日本人が「ツアー」と呼ぶものはなんなのかということを紹介する。その後で文を黙読させ、学生から上がった語彙の説明などをする。その後、整理しながら ABCD を比較する。ツアーを申し込みに来た人を教師が演じ、学生に質問していく。上げられている質問にこだわらず、ABCD の 4 パターンでいろんな質問をしてみるとよい。

**新出語彙**

P19 ~

【名詞】音楽室

【動詞】聞こえます 見えます

P20 ~

【名詞】踊り 状況 普通車 フラダンス ロシア

【動詞】修理します 投げます 縫います

P21 ~

【名詞】空席 自動販売機 紳士服 定期券  
ネットカフェ パンフレット 婦人服  
ホームページ みどりの窓口メール

【動詞】換えます 払います

P22 ~

【名詞】生け花 給料 結果 交通費 質問  
シフト 週 日本舞踊

【動詞】支払います 運びます

【名形】基本的な

P23 ~

【名詞】広告 人力車 スキューバダイビング  
大自然 食べ放題 ふれあいツアー  
牧場焼き肉 夜景 夕食

【動詞】発見します 周ります

【表現】～泊…日

## 学習項目

「可能表現 (2)」

・名詞が 見えます (自然)

cf. 郵便局が見えます。

cf. 見られます。(見ることが出来る: 能力)

・名詞が 聞こえます。(自然)

cf. 電車の音が聞こえます。

cf. 聞けます。(聞くことが出来る: 能力)

## モデル授業プラン

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| 1. 新出語彙導入                 | 4. 基本本文    |
| 2. 「見えます」導入 (「見られます」との違い) | 5. 練習1、2、3 |
| 3. 「聞こえます」導入 (「聞けます」との違い) | 6. 対話      |
|                           | 7. 会話      |

## 導入アドバイス

「見える」「聞こえる」は、自然に目・耳に入ってくるときに使う表現ですが、学生にとっては可能動詞の「見られる」「聞ける」との違いが分かりにくいところです。両者の区別をはっきりさせるため、事前に既習の可能動詞を確認してから導入すると良いでしょう。

例: 「このラジカセはカセットは聞けますが、CDは聞けません。」

「私は新しい携帯電話を買いました。この携帯電話はテレビが見られます。」

また、導入する際は、自然に聞こえる音や声を使って「聞こえる」を導入してから、「見える」を導入すると分かりやすいでしょう。「このラジオは壊れているので聞けません。」「ビルの上から富士山が見えます。」など、「聞こえる」や「見られる」との違いが分かりにくいものは導入には使わないようにします。

「となりの部屋からテレビの音が聞こえる。」の場合、「～から」は音の出所を表しますが、「教室の窓からビルが見える。」の場合、「～から」は見る人がいる位置を表すので、導入するときに注意しましょう。

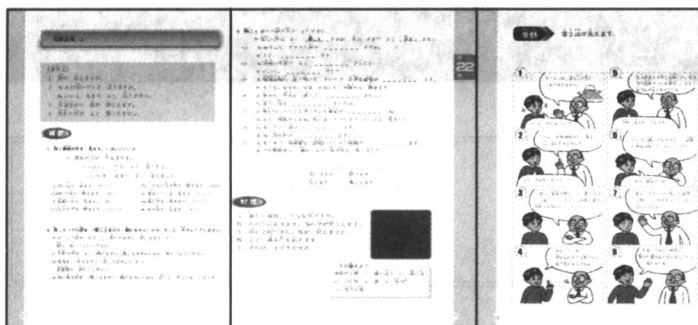
## 導入例1

- T: 波の音や鳥の声など自然に聞こえる音のテープを用意する。
- T: 「皆さんは、海に来ました。ここは海です。」テープをかけて「何かの音です。何ですか。」S: 「波の音です。」T: 「波の音が聞こえます。」(板書) T: 「何の声ですか。」S: 「鳥の声です。」T: 「鳥の音が聞こえます。」(板書)

## 導入例2

- T: 「外に何がありますか。」S<sub>1</sub>: 「ビルがあります。」T: 「そうですね、窓の外にビルが見えます。」(板書)
- T: 「他に何が見えますか。」S<sub>2</sub>: 「木が見えます。」T: 「そうですね。教室の窓からビルや木が見えます。」

\* 「聞こえる・見える」が理解できたら、学生の部屋から聞こえる音、見えるものを使う。



**指導のポイント**

P 24 ~ 26

**練習 1**

- ここでは最低限「見える」、「聞こえる」に変形できるかを見ればよい。ポイントは「を」「が」の言い換え。

**練習 2**

- 「見えると見られる」、「聞こえると聞ける」の違いを説明できるようにしておく。(自然に目や耳に入ってくるもの、状況によって可能であるもの、など)

**練習 3**

- 文法の説明に時間を取られ過ぎないように注意する。AB どちらかを教師がやり、もう一方を回答させるのもよい。

**対話**

- 自分の住んでいる(住んでいた)家がどんなところか質問してみる。写真やポスターなどレアリアを使ってイメージさせると効果的。その後で発話練習

のパターンで練習する。

**会話**

- CD あるいは教師のモデル会話の後、教師対学生、学生对学生で会話。ポイントは正確さより自然なスピード。

**発展**

- 手拍子などでリズムをとってやるとよい。そのとき、一文字1回のリズムではなくて、語彙単位でリズムをとってやるのがポイント。(例：富士山 富士で一拍、山で一拍)

**新出語彙**

P24 ~

【名詞】MD 看板 星座 泣き声  
鳴き声 望遠鏡 ボード

P25 ~

【名詞】字幕 天の川 オリオン座

講座 工場 テレビ番組 波  
北斗七星 前売券 話題

【表現】いろんな そうなんですか

P26 ~

【名詞】自然



## 学習項目

「意向表現」(勧誘、意志)

- ・動詞 意向形の作り方
- ・動詞(意向形) + と思います。

## モデル授業プラン

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新出語彙導入</li> <li>2. 動詞 意向形の作り方導入(テキスト p.29 活用の作り方)</li> <li>3. 練習3</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 「動詞(意向形) + と思います」導入。</li> <li>5. 基本文</li> <li>6. 練習1、2、4</li> <li>7. 対話</li> </ol> |
|--|--|

## 導入アドバイス

この課で扱う意向形には、勧誘の意味(基本文1)と、意志を表すもの(基本文2)があります。勧誘の意味を表すものは友達同士の会話で、一人が誘い、もう一人がそれに応じるという導入にします。「今晚、一緒に映画に行こうよ。」のように、会話の中で使うと勧誘の意味になり、「いいね、行こう。」のように、それに応じるときも意向形が使えることを説明します。

話し手の意志を表すものは、「試験に合格する」「5キロやせる」など、自分の意志で目標を決めて、それに向けて頑張るという設定にします。「来週テストだから、勉強を頑張ろう。」のように、話し手が自分で決めたことを言う、独り言のような形で導入した後、「勉強を頑張ろうと思います。」のようにそれを誰かに伝えるという流れで進めます。意向形に「~と思います」がつくと、これから自分が何かをしようとしている予定について、誰かに伝える表現にもなることを理解させます。

動詞のIグループは、動詞によって活用が違うので丁寧に説明し、口頭練習を多くします。

## 導入例1

1. T: 「S<sub>1</sub>さんは、S<sub>2</sub>さんと映画を見に行きたいです。S<sub>2</sub>さんを誘ってください。」 S<sub>1</sub>: 「S<sub>2</sub>さん、一緒に映画を見に行きませんか。」 S<sub>2</sub>: 「いいですね。行きましょう。」 T: 「S<sub>1</sub>さんとS<sub>2</sub>さんは同じクラスです。友達ですから、友達の言い方をします。」「一緒に映画を見に行こうよ。」「いいね、行こう。」
2. 板書して、文型提示
3. T: もう一度同じ学生を指して、友達言葉で言い直させる。S<sub>1</sub>: 「S<sub>2</sub>さん、今晚一緒に映画を見に行こうよ。」 S<sub>2</sub>: 「いいね、行こう。」
4. 口頭練習

## 導入例2

1. T: 「私は来週デートがあります。だからやせたいです。明日からダイエットします。」「明日からダイエットしよう!」
  2. 板書して、文型提示
  3. 口頭練習
  4. T: 「私は友達に言います。明日からダイエットしようと思います。」
  5. 板書して、文型提示
  6. 口頭練習
- \* 理解できたら、今日の晩ご飯、夏休み、冬休み、卒業後などについて聞いてみる。